

市長室から



宇城市長 阿曾田 清

過去に引きずられるのではなく、新たな発想で三角港再生へ

7月16日(月)の国民の祝日「海の日」に合わせて、三角西港築港120年記念式典を開催いたします。現在、明治の3大築港は、西港だけが残存していて、福井県の三国港は漁港となり、宮城県野蒜(のびる)港は廃港となっています。



三角西港(海側から見た浦島屋)

この西港が今、港として脚光

を浴びています。それは「世界産業遺産」への名乗りをあげてからであります。文部科学省文化庁において審議され、平成19年度に候補に挙げられ、ユネスコへ申請されるかどうかにかかっている年でもあります。そのため、7月16日の記念式典には、多くの市民の参加をお願いいたします。

この120年を記念して、新たに振興策を打ち出そうと考え、地元住民の思いを生かしながら進めている取り組みを紹介したいと思います。

昨年クリスマススイブに開催された「幻灯祭」は、熊本市で結婚式やイベントなどをされているスターライト様に支援をお願いし、そして地元の青年やボランティアの方々の協力により、2000人近い方が集まり大成功でした。まさに、廃墟の建物が不死鳥のごとく一夜よみがえったのです。

廃墟の建物が新たな施設としてよみがえることは良く話題に上ることがあります。この廃墟のピラミッドを生かし、まちの活性化につなげられないかと思ひ、幻灯祭実行委員会の方々に話したところ、自分たちだけではできないがスターライト様の力を借りて多くの若者が集まる



会場となる海のピラミッド

港町を作りたいという思いからパーティー形式のイベント開催を決定し、7月14日(土)の夜からスタートすることになりました。毎週土曜日に実施し、夜市も開かれる予定です。

また、15日の日曜日からイルカウォッチングが三角港を出発します。併せてビール列車も運行されJR三角線の利用促進が期待できます。

三角西港築港120年記念事業は、新たな港町づくりの第一歩と考えております。市民の皆さまのご支援・ご協力を重ねてお願いいたします。

※8月の市長談話室は3日(金)の予定です。参加ご希望の人は、総務部総合政策課(032-1111)へ7月20日(金)までにお申し込みください。

市民レポーターの目

今日も楽しく、プールで元気

古賀由美子

不知火町にある「温水プール」は平成10年2月オープンで開設10年目を迎えました。ここにオープン当初から通っているという平川義利さん(74歳)、義弘さん(72歳)兄弟にお話を伺いました。



平川兄弟(義利さんⅡ右から1人目、義弘さんⅡ右から3人目)とプール仲間

「前は行きよったばってん、今は行きよらんたい」と言う人も多い中でずっと続けてこれたことは、お二人にとつてたくさんさんのメリットがありました。開館時間の午前10時前には十数人の常連さんたちが集まって世間話に興じ、冗談が飛び交って和気あいあい、それはそのままプールの中まで持ち込まれて水の中を歩きながらの談笑が続きます。プール仲間で花見や忘年会など、プール以外での交流もあります。

それから、「かぜをひかなくなった」、「寝つきが良い」、「民間施設より利用料金が安い」、「わが家から近い」など、良いことばかりでほとんど毎日通っているとのことでした。それはもう生活の一部になっていて「午前中の楽しみたいな」と笑顔で言われました。兄の義利さんは、県のマスターズ水泳大会に宇城チームの一員として参加するベテランでコースを自在に泳がれます。弟の義弘さんは、



みんな楽しく水中ウォーキング

以前、足の手術をして以来リハビリを兼ねた水中ウォーキングを楽しまれています。

朝のプールは70代、80代の男女が自分のペースに合わせて歩いたり、泳いだりの平和で健康的な時の流れがあります。無理せず、楽しみながらいつの間にか体力づくり、仲間づくりができていくプールは、高齢者にとって大切な「介護予防」の手段のひとつにもなっていると思います。

派遣職員の東京見聞録

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は株式会社電通の内富裕登さんです。

新入社員並みのハードな集合研修も5月いっぱい終了、6月より営業部門に配属となりました。担当は大手Sビル会社ということで、今はSビル関連商品しか飲まない生活を送っております。

先日、そのSビル会社が提供されているとあるラジオ番組の収録に行ってきました。パーソナリティは料理家のケンタロウさんと松本ともさん。そのお二人と名刺交換させていただいた際に、宇城市のことを尋ねましたが、ご存じではありませんでした。想定内ですが、ちよつぱり悲しい気持ちになりました。自分たちの住んでいる宇城市を誇りに思っているからこそ、もっと多くの人に宇城市のことを知ってもらいたいと思っております。観光誘致、物産振興、企業誘致など対外的な市の政策を進めるため、地域を活性化させるためにも、やはり宇城市の知名度をアップすることが必要だ

と思います。残り期間、Sビルを飲みながらいろいろ戦略を練っていきたいと思います。みなさんからも宇城市をPRする良いアイデアがあれば、ぜひお聞かせください。お待ちしております。E-mail: g22536@denso.co.jp

新しい介護のカタチ

矢澤 敏恵

小規模多機能型居宅介護：昨年4月の介護保険改正で新しく制度化されたサービスです。現在、宇城市にはこのサービスを行う事業所が4カ所あります。その中の一つ、松橋町のフォーシーズン在宅ケアセンター(橋本佳織施設長)を紹介します。

フォーシーズンは、住宅街にありながら、緑に囲まれ、施設の中ではゆつくりとした時間が流れています。運営理念である「一人ひとりの今までの歩みを大切にし、一人ひとりの「いま」

「この時」に寄り添います」をスタッフ一人一人が自覚しているように感じられ、介護に対する熱い思いが伝わってくる施設です。

小規模多機能型居宅介護は、地域密着型サービスの一つで、介護が必要となっても住み慣れた家に暮らし、地域の中で安心して生活ができるように、「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービスを柔軟に組み合わせて提供するサービスです。小規模模と言うように、登録人数は25人までに限られています。その人たちは24時間365日、本人の

状況や家族の状況に応じて、継続し支援を提供できるように体制を整えているのが、フォーシーズン在宅ケアセンターです。今年3月にオープンしたばかりの新しい施設ですが、徐々に利用者も増え、「フォーシーズンの方向性が見えてきた」とケアマネージャーの村嶋緑さんは語ります。

「今、ここにいる。この人を支えたい。」そう語るスタッフがいます。フォーシーズンにいますと、利用者の皆さんの生き生きとした姿に出会います。小規模多機能という新しい介護のカタチを見ることができました。

